

の加藤氏はおそらく佐伯氏遺臣の流れであろう。なお佐

伯地方の加藤氏には「下り藤」紋を用いる家が多い。

## 大友氏の歴代墳墓を巡る

四代親時・五代貞親

古藤田

太

(会員・弥生町江良)

鎮西にあって、蒙古戦をとりしきった感のある第三代頼泰も晩年に及んでは、益々露骨になってくる北条氏の得宗政治に迫立てらるゝようにして隠遁した。この北条氏の鎌倉幕府は弘安役(一二八一)後僅かに五二年にして滅びたが蒙古戦後の困難の時代に、四代親時、五代貞親、六代貞宗は活躍したのである。

戦後、御家人の間で訴訟問題が多発してきたが、各国守護に最後の裁決権が無かったために、鎌倉や京都にのぼってゆく者が多かった。このため、弘安七年(一二八四)―特殊合議制、弘安九年(一二八六)―鎮西談議所、正応六年(一二九三)―鎮西探題、永仁七年(一二九九)正月―鎮西評定衆、永仁七年四月―評定衆の補助機関と

して引付衆(この引付衆は補助機関とはいふものゝ、その筆頭ないし重役は有力守護が任命された)と鎮西探題を頂点とする軍事行政・裁判の機構がようやく形成された。このことは従来の鎮西の有力守護少弐、大友、島津氏の権限が奪われることでもあった。この引付衆の中に、第三番筆頭に大友貞親の名が見える。大友氏は頼泰後もその実力は高く評価されていたのである。然し歴代大友氏を眺めるとき、親時、貞親についてはよく知られていない。『大分の歴史』『大友物語』でも余り触れられていない。根拠となる史料が極めて乏しいのである。

### (一) 四代 大友親時の墓



大友親時夫妻の墓（三重町中尾大楽寺跡）

前因州大守道徳大禪定門

永仁三年九月廿三日逝

從五位上因幡守兼行左近將監親時

墓所 大野郡三重郷中尾村大楽寺

(註) (1)ここに掲げる卒年、法名等は志賀文書による。

(2)禪定門とは(一)禪定の門戸(二)禪定の門戸に入るの謂にて、男子の戒名に附する語。(仏教辞典による)

大友親時の墓所を確める場合、幾つかの疑問を感じる。親時以下を大友系図類によって述べることにする。

○大友氏系譜（大友義一氏蔵本）

親時については「母筑井左衛門尉親繁女」とあるのみで、この人については卒年、菩提寺等知るよしもない。

○大友系図（松野家々伝）

この系図は、旧植田村秋岡、大友第三代頼泰の菩提寺で常楽寺蔵本の「大友系図」で元肥後、松野家々伝のものである。親時については、

大友因幡守蔵人、左近將監從五位下、母筑井左衛門尉女、

嘉禎二年丙申生、正応五年壬辰父頼泰を継ぎ鎮西奉行職となる永仁三年（一二九五）乙未九月十二日逝去、六十才

前因州大守道徳大禪定門と号す、治国四年。

家督の期間は四年にすぎないことがわかる。

○宗家大友之系図

この系図は杵築市入江チヨ氏家蔵の田原氏系図より分離抽出したものである。

親時については、大友左近将監、藏人因幡守、法名道德道意共に云う。永仁三年九月二十二日六十才にして卒する説は誤也、建武三年正月十一日、東洞院面結城太田判官と親光（親時の誤りか）相戦い死す。

とある。この建武三年説では年令が百歳を越し、にわかには首肯できない。

○大友系図（大友義一氏調製）

松野系図と同様

以上の系図類で不思議に思うことは、この人に限って菩提寺名が全く誌されてないことである。いろいろ探している、大友義一氏調製と印刷された「大友氏歴代一覽表」があり、これに、従五位上藏人左近将監式部大輔因幡守大楽寺殿二豊国司兼因州刺史道德大禅定門とあって「大楽寺」が誌されてある。又或人提供のものに、「旧記」に曰く、寺は大野郡三重郷中尾村大楽寺に建立、後

廢壊して、釈迦堂跡の上に廟所あり、其後大分郡植田庄上宗方村大楽寺に移る。とあった。

このようなことで、三重町中尾の大友親時の墓は指定されたものであろうか。

この親時は、蒙古戦の弘安役で、蒙古軍が志賀島沿いに大宰府を攻撃せんとするに当って、玖珠郡土古後通重や帆足道員を指揮して奮戦したことが知られている外多くは解っていない。大友氏家督達の墓所が余りに散在する点に興味と疑問を抱くのである。

親時の時代を推察するに、大友氏が豊後に土着して以来、嫡庶といわず、宇佐神宮領、同社々家領有地、弥勒寺領等を押領してゆくケースが非常に多い。宇佐神宮、弥勒寺が、経済的基盤を失って勢力を失墜してゆくのである。親時は永仁三年に死去したが、永仁五年（一二九七）には、世に謂う「永仁の徳政令」が出された。これに倣ってか宇佐八幡が強訴して、筑前国野坂庄地頭職を獲得しているのである。このように、大友氏の後裔達は、守護職・地頭職の名のもとに周辺を圧迫し押領していった。このようなことから所領が拡大され、その所領に係して墓所が散在するものなのか、親時の墓所が何故に

中尾に存在するものなのか。

三重郷百十町は、霜月騒動の安達泰盛の所領であったが『大分の歴史』によると、大友氏に恩給されたものとも考えられるとある。これが正しいものとすれば、親時の卒年十年前のことであるから、三重郷と大友氏本家との所領上の結びつきはわかるのである。

## (二) 五代 大友貞親の墓

万寿寺殿玉山正温大禅定門

応長元年七月廿九日逝



大友貞時の墓

従五位上出羽守兼行左近将監貞親

墓所 大分市金池町万寿寺

父親時は家督四年という極めて短いもので、長男貞親に家督を譲った。

### ○大友氏系譜

貞親については、母戸次太郎時親入道道恵女

### ○大友系図（松野家々伝）

この系図では、貞親、貞宗は親時の子供では無く、弟となっている。貞宗の事歴の中に、親時の第三子でなく、本当は頼泰の第四子であるとのべてある。このことは通説に反するもの、ようである。

新藏人左近大夫、刑部大夫、寛元四年（一二四六）丙午生、永仁三年乙未九月二十二日兄親時逝去時に、親時の子秀直幼稚にして未だ国家を保つ能はず、これにより父頼泰貞親をして亡兄の国家を継がしたとある。また神仏を尊崇するに及び寺社建立のこと、国に還って後、徳治元年（一一三〇六）丙午、家臣吉弘美濃守某をして、筑前博多承天禅寺に直翁和尚を懇請して、豊後府内の蔭山万寿に聖禅寺を興す。

また使者を中国に遣はして、能手趙子昂の真蹟

「蔣山」の大字を請い得て、万寿寺の山門に掛けて(懸)後世にのこした。関西においては第一の扁額で壮観であった。

応長元年(一一三二)病を得て、子無きにより弟貞宗に国家を譲る。同年七月十九日逝去年六十四才、万寿寺殿と号す、從四位上行親衛校尉兼羽州刺史玉山正温公大禪定門

○宗家大友氏之系図

貞親については、大友と号す、從四位上新藏人左近大夫将監出羽守、法名正温万寿寺と号す、昇殿あり。

宮中昇殿のことが述べられている。この貞親は先述したように、永仁七年(一二九九)鎮西評定衆引付衆として活躍した人である。貞の一字は得宗専制の執権北条貞時より貰い受けたものであると伝えられる。貞親の我々に親しみを与えるものは、禅宗受容の万寿寺の創建者であることである。

(つづく)

郷土の出版紹介

蒲江町の文化財

町教育委員会発行  
B5判 五十六頁

蒲江町の文化財は、県指定六件・町指定二十二件あり特色のあるものが多い。

天然記念物「カマエカズラ」は、日本中でも蒲江町葛原地区だけしかない珍しいカズラである。一部地区にたくさん自生している。

丸市尾神楽は、久しく交通不便であったため文化的に孤立が見られ、大分県では特異な岩戸神楽として伝承されている。

蒲江の漁具は、県の漁具民俗資料の指定第一号である。現在二千点余りの貴重な資料が収集されているが、経費の関係で完全な展示がなされていないのが惜しまれる。

昭和五十五年十二月二十八日から三十六回にわたって大分合同新聞に連載された「海部の漁具」の文と写真がそのまゝ本書に収載されていることは、まことに嬉しい。数多くの文化財が精しい解説つきで紹介されている。見て楽しい、読んで更に楽しい本である。(塩月)